

科目名	臨床実習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3	時間数	120時間	担当者	実習指導者		
実施年度	2022年度	実施時期	後期Ⅰ	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	臨床実習指導者の指導の下、言語聴覚士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習する。本学科臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・言語聴覚療法計画立案・言語聴覚療法実施および記録報告等の一連の言語聴覚療法を実践する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					言語聴覚士の業務の流れとその内容を理解する。	
			○	○		言語聴覚士が働いている姿を通して、障がいを持つ人への対応や職業人としての基本的態度を学ぶ	
			○	○		学内にて修得した知識・技能・態度を統合して臨床に適用し、言語聴覚療法の評価診断および訓練・指導・支援の技能を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<p>事前セミナー :8月8日～ 臨床実習ガイダンスを実施。(臨床実習の目的やリスク管理について) 国家試験問題を利用した知識面の確認。 演習や実技を通して、検査・測定の方法を修得し、得られる結果の意味を理解する。 接遇講座を実施。</p> <p>・臨床実習Ⅰ:2022年8月22日(月)～9月10日(土)の4週間 ※施設の就業規定に応じて4週間実施(5日/週を基本とする)</p> <p>・臨床実習Ⅰ事後セミナー:2022年9月12日(月)～9月17日(金) 各施設で学んだことを共有するグループワークを実施。 臨床実習提出課題について担当教員よりフィードバックを受ける。</p>					
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	臨床実習指導者が学校の定める成績評価の基準によって評価した、実習成績報告点6割 臨床実習期間中における学校評価項目による、評価点を4割						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習課題遂行		◎	◎	◎		70%
	提出課題		◎		◎		20%
	グループワーク・発表		◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	臨床実習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	8	時間数	320時間	担当者	実習指導者		
実施年度	2022年度	実施時期	後期Ⅰ	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	臨床実習指導者の指導の下、言語聴覚士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習する。本学科臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・言語聴覚療法計画立案・言語聴覚療法実施および記録報告等の一連の言語聴覚療法を実践する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					言語聴覚士の業務の流れとその内容を理解する。	
			○	○		言語聴覚士が働いている姿を通して、障がいを持つ人への対応や職業人としての基本的態度を学ぶ	
			○	○		学内にて修得した知識・技能・態度を統合して臨床に適用し、言語聴覚療法の評価診断および訓練・指導・支援の技能を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	<p>臨床実習Ⅲ事前セミナー:2022年9月20日(火)~9月24日(金) 臨床実習Ⅲに必要な知識・技術の再確認。</p> <p>臨床実習Ⅲ:2022年9月26日(月)~11月19日(土)の8週間 ※施設の就業規定に応じて10週間実施(5日/週を基本とする)</p> <p>臨床実習Ⅲ事後セミナー 各施設で学んだことを共有するグループワークと症例発表の実施。 臨床実習提出課題について担当教員よりフィードバックを受ける。</p>					
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	臨床実習指導者が学校の定める成績評価の基準によって評価した、実習成績報告点6割 臨床実習期間中における学校評価項目による、評価点を4割						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習課題遂行		◎	◎	◎		70%
	提出課題		◎		◎		20%
	グループワーク・発表		◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	医学総論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大久保史子・今村亜子 ・安藤廣美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期Ⅱ	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間2年						
授業概要	医療従事者の一員として医学の歴史を学び、医学の成り立ちについて理解することを目指す。リハビリテーションにおける全人的尊重の理念を理解するために、ICFや死について理解を深め、個別な対応の必要性を認識することを目指す						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					医学の歴史を知り、成り立ちについて概要を説明できる	
		○				全人的なアプローチの基礎を築くためにICFの理念について説明できる	
		○				死ぬということについて学び、死にゆく人に対する配慮をイメージし説明できる	
		○				支援者・家族の立場を理解し、サポートすることの必要性を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	・ 医学書院 学生のための医療概論 第4版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 医療の基本「人道主義・人権」について考え				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	2	患者の権利を尊重する				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	3	医療現場の倫理・2つのケースから学ぶ臨床倫理				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	4	人の気持ちを慮ることの大切さ・情報共有とチーム医療				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	5	カウンセリングによる自己決定支援・医療職のプロフェッショナリズムによる自己決定支援				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	6	医療職のプロフェッショナリズム				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	7	第1章まとめ				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	8	第2章 健康の決定要因とヘルスプロモーション				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	9	第2章 Well beingのとらえ方と支援				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	10	第3章 近代医学の誕生と感染症対策・非感染性疾患の増加				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	11	ゲノム医学の登場からゲノム編集へ・医療情報テクノロジーの活用に伴う課題				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	12	健康影響をもたらす環境問題と医療職のあり方・薬害にみる利害関係の医療への影響と医療の質				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	13	補完代替療法と全人的統合医療・臓器移植から再生医療へ				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	14	健康を次世代へつなぐこと・科学的根拠とこれからの医療				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
	15	第3章まとめ				教科書と配布プリントをもとに復習を行う	
評価方法	(1)レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	○	◎				10%
履修上の注意							

科目名	基礎医学講座 II						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	小川春美ほか		
実施年度	2022年度	実施時期	後期 II	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・疾患・ことばの成り立ちに関する知識を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語聴覚士の資格に求められる基礎的知識の水準を意識できる。	
	○	○				小項目分類ごとの過去問題から正しい答えを選択できる。	
	○	○				小項目分類ごとの過去問題を解説できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	生理学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	2	内科学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	3	小児科学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	4	臨床神経科学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	5	精神医学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	6	耳鼻咽喉科学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	7	臨床歯科口腔外科学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	8	国家試験模擬試験			誤った問題、自信がなかった問題に解説を書きこむ。		
	9	解剖学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	10	病理学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	11	生涯発達心理学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	12	臨床心理学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	13	社会福祉学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	14	言語発達学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、解説を書きこんでおく		
	15	定期試験と解説			選択肢をすべて正文に書き換える		
評価方法	成績処理方法: 1.模擬試験と定期試験にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					100%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	呼吸発声発語系の構造機能病態						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉 享子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる呼吸発声発語系の構造昨日病態に関する知識・技能・態度を習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				呼吸発声発語の機能について説明することができる	
	○	○				呼吸発声発語にかかわる疾患を列挙し、病態について説明することができる	
	○	○				呼吸発声発語系の検査について説明することができる	
	○	○				言語聴覚士国家試験の過去問の解説が説明できる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	国試出題範囲の整理とまとめ/シラバス提示				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	2	呼吸発声発語器官の構造に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	3	呼吸発声発語器官の機能に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	4	呼吸発声発語の中核に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	5	呼吸発声発語の検査に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	6	構音障害に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	7	音声障害に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	8	ミニ模擬試験				試験対策をする。	
	9	器質性構音障害の原因となる疾患に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	10	運動障害性構音障害の原因となる疾患に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	11	音声障害の原因となる疾患に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	12	喉頭摘出に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	13	口腔・喉頭の手術法に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	14	口蓋裂の手術法に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
15	第23回 国家試験模擬試験の解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。		
評価方法	成績処理方法:ミニ模擬試験と定期試験にて評価 以上を書きの観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					60%
小テスト	○					40%	
履修上の注意							

科目名	聴覚障害の構造機能病態						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	竹松 知紀・兒玉 成博		
実施年度	2022年度	実施時期	後期Ⅱ	担当者実務経験	施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる聴覚系の構造機能病態に関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					聴覚器と脳の機能について説明することができる	
	○					聴覚器の疾患を列挙し、病態について説明することができる	
	○					聴覚器の検査について説明することができる。	
	○					言語聴覚士国家試験の過去問の解説が説明できる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	耳の構造に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	2	耳の機能に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	3	平衡機能に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	4	聴覚検査に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	5	小児聴覚検査に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	6	成人の聴覚検査に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	7	補聴器の構造に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	8	補聴器の調整に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	9	成人の聴覚系疾患に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	10	小児の聴覚系疾患に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	11	人工内耳の構造に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	12	人工内耳の調整に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	13	聴覚の病態に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	14	聴覚の病態に関する国家試験問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	15	聴覚系の構造機能病態に関する総合的な問題の演習と解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
評価方法	成績処理方法: 1.ミニ模擬試験と定期試験にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					60%
	小テスト	○					40%
履修上の注意							

科目名	神経系の構造機能病態						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	工藤 康介		
実施年度	2022年度	実施時期	後期Ⅱ	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる神経系の構造機能病態に関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					脳と神経のしくみについて説明できる	
	○					脳と神経の症候と検査について説明できる	
	○					脳血管障害を説明できる	
	○					言語聴覚士国家試験の過去問の解説が説明できる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	国試出題範囲の整理とまとめ／シラバス提示				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	2	脳の構造に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	3	脳の系統発生及び脳を構成する細胞に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	4	大脳のしくみに関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	5	大脳の構造と機能局在・海馬系・基底核系に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	6	間脳・小脳・脳幹に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	7	脳室・脳脊髄液・脳血管環流に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	8	脳神経に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	9	ミニ模擬試験 実施				試験対策をする。	
	10	脊髄神経・自律神経に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	11	運動神経・感覚神経・特殊感覚神経に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	12	脳血管障害に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	13	認知症に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
	14	脱髄変性疾患に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。	
15	第23回 国家試験模擬試験の解説				該当する国家試験過去問題を解き、調べ学習をする。		
評価方法	成績処理方法: 1.ミニ模擬試験と定期試験にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					60%
	小テスト	○					40%
履修上の注意							

科目名	心理測定法						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	井上仁郎		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	ものの見え方、聞こえ方、記憶、そして発達や知能、学力などの人の「心理」を測るとはということなのかを学ぶ。また、心理測定法を言語聴覚療法にどう活用していくのかを考える。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				心理測定の概要を説明できる。	
	○	○				測定値の性質を説明できる。	
	○	○				データ解析方法を列挙し、それぞれを概説できる。	
	○	○				測定の方法を列挙し、それぞれを概説できる。	
テキスト・教材 参考図書	プリントにて配布						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	心を測るとは 心理測定とは/見え方を測る/記憶実験			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	2	測定値の性質 尺度水準/相関と回帰			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	3	測定値の性質 測定パラダイム/反応時間を測る			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	4	データ解析 母集団と標本/信頼性と妥当性			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	5	多変量解析 検定の考え方/各種の多変量解析			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	6	知覚を測る 調整法・極限法・恒常法			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	7	知覚を測る マグニチュード推定法・評定法・一対比較法			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	8	まとめ			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	9	小テスト			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	10	国家試験対策			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	11	国家試験対策			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	12	国家試験対策			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	13	国家試験対策			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
	14	国家試験対策			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)		
15	小テスト			授業内容に該当するプリントを復習しておく。(30分)			
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	応用言語学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高井 岩生		
実施年度	2022年度	実施時期	後期Ⅱ	担当者実務経験	大学にて言語学の研究に従事		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる言語とコミュニケーションに関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					人間言語の特性について説明できる	
	○					言語の要素とその機能について説明できる	
	○					意味論・形態論・統語論・語用論などの構造と基本概念を説明できる	
	○					国文法の基本が説明できる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	言語学系の国家試験過去問題の特徴			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	2	音素・ミニマムペア系の問題			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	3	恣意性・分節性の問題			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	4	意味論に関する問題			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	5	形態論に関する問題			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	6	統語論に関する問題			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	7	語用論に関する問題			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	8	国文法に関する問題			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	9	修飾に関する問題			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	10	n項動詞に関する問題			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	11	国家試験対策言語学アクティブラーニング			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	12	言語学ミニ模擬試験			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	13	言語学ミニ国家試験模擬試験の解説			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
	14	言語学模擬試験			該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。		
15	言語学国家試験模擬試験の解説			講座全体を振り返る。			
評価方法	成績処理方法: 1.ミニ模擬試験と模擬試験にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					100%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	応用音声学						
科目名(英)	Applied phonetics						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	増田 正彦 今村 亜子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期Ⅱ	担当者実務経験	大学にて音声学の研究に従事(増田) 施設にて言語聴覚士として勤務(今村)		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる言語とコミュニケーションに関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				音声の基本概念について説明できる	
		○				音声生成の音響的特徴に関する基本概念が説明できる	
		○				音響分析の基本概念が説明できる	
		○				言語音の音響的特徴を理解し調音との関係を説明できる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音声学系の国家試験過去問題の特徴				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	2	IPAに関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	3	ソースフィルタモデルに関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	4	フォルマントに関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	5	文字表記に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	6	サウンドスペクトログラムに関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	7	音響的特徴に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	8	超分節的要素に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	9	音の知覚に関する問題				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	10	IPAラーニング				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	11	国家試験対策音声学アクティブラーニング				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	12	音声学ミニ模擬試験				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	13	音声学ミニ国家試験模擬試験の解説				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
	14	音声学模擬試験				該当する国家試験過去問題を解き、類似問題を作成する。	
15	音声学国家試験模擬試験の解説				講座全体を振り返る。		
評価方法	成績処理方法: 1.ミニ模擬試験と模擬試験にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					100%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	応用音響学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	大戸 直也		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨書について学修する上で、基礎となる言語とコミュニケーションに関する知識・技能・態度を習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					音の物理的側面の基本的概念が説明できる	
	○					言語音の音響的特性を理解し、調音との関係を説明できる。	
	○					音声知覚に関する基本的概念と知識を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:講談社、2014 青木直史「ゼロからはじめる音響学」 大揚社、2022 2022年度版言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音の伝搬				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	2	純音、複合音、オクターブ				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	3	音の物理的性質:音響パワー、音の強さのレベル、音圧レベル				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	4	聴力レベル、感覚レベル、等ラウドネス曲線(phone、sone)				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	5	音の周波数分析:スペクトルとその表現				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	6	音の大きさ・高さの知覚、フェヒナーの法則				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	7	スティーブンスのべき法則、ウェーバーの法則				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	8	音の高さの知覚、mel尺度				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	9	場所ピッチ、時間ピッチ				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	10	マスキング				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	11	臨界帯域と聴覚フィルタ				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	12	両耳聴、方向知覚				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	13	MLD、先行音効果				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	14	サウンドスペクトログラムの見方				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
	15	音響学・聴覚心理学のまとめと補足				国家試験過去問の該当問題の解説を理解する。講座を振り返りまとめ、繰り返し学習する(30分)	
評価方法	定期試験(筆記)を実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
履修上の注意							

科目名	社会保障制度・関係法規						
科目名(英)	Social security system						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	山川 泰・小川 春美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期Ⅱ	担当者実務経験	地域生活支援施設にて管理者として勤務(山川) 病院にて言語聴覚士として勤務(小川)		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の全体の仕組みを理解し、個別の保険制度を学ぶ ・言語聴覚士に関わる法律や規定を理解する ・関連職種に関する理解を深める ・実際に働くにあたって必要な法律や規定を知る 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				社会保障制度の仕組み、各種制度について概説することができる。	
	○	○				医療関係法規について概説することができる。	
	○	○				言語聴覚士法について概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 建帛社 2012 倉内紀子 言語聴覚療法シリーズ 改訂言語聴覚障害総論Ⅰ 南江堂 2015 中島泉 医学概論、齊藤 秀之 参考図書 医歯薬出版 2018 言語聴覚士テキスト第3版 医学書院 2020能登 真一 リハビリテーション管						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障制度	社会保障の機能、仕組み		授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。		
	2		社会福祉主要法則		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	3		公的扶助、障害者手帳		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	4		介護保険制度、医療保険制度		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	5		年金制度		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	6		社会福祉援助		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	7	関係法規	法の概念		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	8		医事法規		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	9		医事法～衛生法の分類、厚生行政		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	10		医事法～医師法などの関連職種の法規		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	11		医事法～保健・環境衛生など		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	12		労働関係法規		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	13	言語聴覚士法	言語聴覚士法		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	14		言語聴覚士法施行規則、言語聴覚士法施行令		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
15	まとめ	まとめの内容を受けて国家試験問題に取り組む					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	言語聴覚マネジメントと研究法						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	星子 隆裕		
実施年度	2022年度	実施時期	後期Ⅱ	担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	組織における役割と求められる行動を修得する。生涯学習する行動を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				病院施設の組織の全体像を学び、組織マネジメント、連携について説明することができる。	
	○	○				医療従事における質的補償及びリスクマネジメントについて説明することができる。	
	○	○				研究法の基礎を理解し、他者の研究を読み取ることができる。	
	○	○				論文レビューを積み重ねることができる。	
	○	○				経験を基にした自身の学びを発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書:リハビリテーション管理学. 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	病院・施設の組織			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	2	コンプライアンス			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	3	労務管理			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	4	組織マネジメント			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	5	多職種連携			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	6	医療の質的補償			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	7	リスクマネジメント			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	8	論文レビューの仕方			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	9	論文抄読の仕方			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	10	論文抄読会			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	11	実習報告準備			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	12	実習報告会			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	13	研究法基礎			受講内容をA4一枚にまとめ、ファイリングする(50分)		
	14	分析法の基礎			論文検索し、レビューを積み重ねる。		
15	まとめ			論文検索し、レビューを積み重ねる。			
評価方法	1)成果物評価:受講ごとのまとめを成果物として別途基準に合わせて評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品	◎	◎				100%	
履修上の注意							